

平成21年度能美市地域福祉活動計画

第3回アクションプラン推進協議会及び第3回評価委員会

日時：平成21年9月29日（火）午後7時30分～

場所：辰口健康福祉センター

出席者：高塚亮三（福祉施設等）、西川方敏（市ボランティア連絡協議会）、井上徹（市民生委員児童委員協議会）、澤田時弘（市町会長連合会）、宮田明（市自治公民館協議会）、南昭憲（市自治公民館協議会）喜多泉（子育てに関わる団体）、近藤沙夜里（一般公募）、田中邦一（学識経験者）

[欠席者：荒井昌宏（学識経験者）]

事務局：宮本会長、宮田事務局長、新川、海道、南野、谷

1. 開会の挨拶

西川副委員長：私たちのボランティアセンターづくり委員会では、8/19の委員会に支えあいのしくみづくり委員会の喜多委員長、近藤副委員長に出席してもらった。単に一方のことを聞くだけでなく、お互いの委員会について話し合い、理解を深めた。目指すところは同じであるが、委員会のあり方やモチベーションの違いがあって大変参考になった。これから各委員会が横のつながりをもって進めていくことも必要だと思った。そんな視点をふまえてAP委員会やこの推進協議会でも協議していきたい。

2. 各アクションプラン委員会からの報告・・・資料1参照（以下資料1により説明）

人づくり委員会

宮田：人づくりというのは、なかなか具体的な成果をあげるのが難しいが、行事を通じて、たくさんの方に参加してもらいながら、共生社会の理解を深めることを目的とする、ふれあい事業について報告を受けた。

サポーター養成講座については、市が、事務局となって認知症キャラバンメイトが進めており、人づくり委員会としてもこの講座を受けた。受講する方は、個々に求める内容に違いがあり、そんなことから、講座の内容について検討することになった。人づくり委員会は、キャラバンメイトと絡みながら、もっと市民にPRして、開催回数を増やし、サポーターを増やしていくことが、今年度の主要な活動となる。

ネットワークづくり委員会

井上：ネットワークづくり委員会は、今年度は、いきいきサロンと地域福祉委員会の2つが、主要なテーマである。いきいきサロンについては、運営にかかる手引書を作成することになり、その原案を協議してきて、だいたい、詰めているところである。

また、地域福祉委員会の設置状況については、昨年度末、市内63町会であったのが、今年度はこれまでに69町会となっている。未設置の町会があるが、町会の思いや設置に支障があるなど、現状について、市福祉課より調査されることになった。

それから、今日ですが、小矢部市社協と交流し、「見守りネットワーク」の

研修をし「有償で支えあいをしている」ところがあることを知った。

支えあいのしくみづくり委員会

喜多：ファミサポの状況だが、会員、利用実績も少しづつ増えている。今年度の委員会活動の中心にしている「周知・啓発活動」では、7～8月といろんなところ、機会に出向いて、若い方から高齢の方まで、また男性の方にも関心を持って聞いてもらえた。小人数の顔の見える中で話しを聞いてもらい、受け手の反応が返ってきて、やりとりする中で自分たちの思いが、充分、伝わっていると手応えを実感している。

また、昨年度、行った啓発のための寸劇をいつでも活用できるように、委員会で読み合わせなど始めた。

ファミサポの運営委員会は、どんな位置づけでいけばいいのか、社協事務局ときちん話し合っただけで共通理解をしておく必要がある。現状は、ファミサポのコーディネーターのお手伝い的な役割として、2人いるが、将来的に運営委員会が果たす役割とか、位置づけというのを見極めなければいけないと思う。

私たちのボランティアセンターづくり委員会

南：ボランティアセンターの啓発ポスターが作成され、市内の公共施設などに掲示したことを確認した。またホームページを立ち上げたところで、これから内容をどのようにすべきか、話を進めている。ボランティア・コミュニティ活動支援センター運営委員会の委員を集めるにしても、4月からになるということで、今年度は、運営委員会という形ではなく、AP委員会がボランティアセンターの来期の計画を立て、実際にどのような業務があるかを確認してみようということで話を進めている。

西川：以上の報告に対し、何か、質問・意見等はあるか。

澤田：地域福祉委員会の設置については、なかなか進まない状況。未設置のところをみると、小さい町会は、設置が難しいのかなという感じ。市の調査もあるが、未設置の町会に、個々にアプローチする他はないと思う。

喜多：小さい町会は、地域福祉委員会がなくても、町内の課題について、みんなで話し合ったり、助けあっているという意識があって、必要性を感じていないということがあると思う。大きな町会は地域福祉委員会という形を先につくって、進めながらまとめていくということもあるのかもしれない。

井上：小さい単位の町会だけでなく、大きな単位の町会でも、未設置のところがあり、個々にいろいろな状況があって一様には言えない。

宮田：「市から町会に降りる仕事が増えた」という負担感が先にきて、地域福祉委員会について、あまり理解されていないのかもしれない。

田中：私の町会でも設置にあたり、「これまで町会のしてきたこと」そのものではないかという意見があった。また、設置はしたものの、実際にどんな活動を

したらよいか、明確に出てこない。現状は、福祉課題について情報交換することにとどまっている。

西川：組織的には、町会と自主防災と地域福祉委員会とは、殆ど同じで、1つがきちんと運営され、議題として挙げれば、それでカバーできるという意識が出てくるのではないか。私自身は、町会の大きさがまちまちなので、全部横並びでなくても良いような気がする。

重点地区地域福祉委員会の例を上手く広報して、「何が求められているか」ということを周知していけば、良い方向に進んでいくと思う。

事務局：地域福祉委員会を設置したと言っても、活発な活動をしている町会ばかりではなく、そんな中でいかに理解してもらい進めるかが大事である。地域福祉委員会という何か行事をしないといけないと、とらわれているところもあるが、福祉という面で町会行事を見直して欲しいということで、町会の役員会などに民生委員をはじめ、いきいきサロンに協力している方が加わって福祉について懇談するだけでも、意識が高まっていくと思う。

喜多：町会で、福祉について話し合うことが大事で、話し合っていくうちに町内の人の福祉意識が高まって、地域福祉委員会の必要性も理解されていくと思う。

宮田：ボランティアセンターのホームページが立ち上がっているということだが、アドレスは、どこに公開されているのか？

西川：啓発ポスターに掲載してが、これから、10月10日から作業班を組織し、内容を充実させていく予定。

3. 第2回地域福祉フォーラム（案）について・・・資料2

事務局：資料1の各AP委員会からの報告では、人づくり委員会、支えあいのしくみづくり委員会、私たちのボランティアセンターづくり委員会の3つの委員会では、事務局（案）に了解ということである。ネットワークづくり委員会は、1週間というのは期間として少し長いのではないかという意見であり、この意見について協議し、すり合わせてまとめる方向でお願いしたい。

西川：「ちいきふくしウィーク」ということで、2月28日（日）のまなびフェスタから始まって、3月6日（土）まで1週間だが、もう少し、幅を狭めるとい調整は可能かどうか。

井上：1週間は、印象的に長いという意見をNWづくり委員会として挙げたが、開催期間に幅をとって、参加しやすい日を選択できるという良い面も理解している。

西川：NWづくり委員会の報告では、1日目のまなびフェスタで1コマ、AP委員会独自で企画する1コマ、最終日の反省会を兼ねた自由談義に参加する1コ

マ、最低3日間の参加になるのではないかということだが、この点の意見はどうか？

宮田：NWづくり委員会は、いきいきサロンオープン参加の1コマと重点地区地域福祉委員会オープンディスカッションの1コマ、そして、その他にもう1コマを企画するという事ではないのか。

井上：NWづくり委員会は、その2つが主要なテーマだが、どんな絡みになるか。

西川：基本的に、全部、参加するということは無理なので、都合の良い日に参加することになる。他のAP委員会のことを知る機会とするには、1週間という期間は良いと思う。

事務局：NWづくり委員会の方でも、他を見たいという意見や、1日のうちに日中、夕方と2コマあっても良いのではないかという意見があった。

喜多：私も最初は、印象的に長いと思った。でも1週間の幅をとって住民に周知し、裾野を広げるとか、他のAP委員会を知るということを大事にするならば、都合の良いときに参加する形で間口を広げた方が良いと思う。

井上：期間を長くすると宣伝にもなる。短期間開催よりも大きなPRになるということもある。

近藤：毎日、同じことをするのではなく、いろいろなコマがあって、興味のあるところに参加することであれば、住民にとっても1週間の方が良いと思う。

宮田：いろいろなコマがあるにしても、参加が多いところ、少ないところと波もあるだろう。

喜多：波があっても良い、参加人数が勝負ではない。意識のある方は、声かけしなくても参加されるので、そうでない方にいかに参加してもらうかという「しかけ」が大事である。

事務局：いきいきサロンオープン参加のコマは、どこかの町会のいきいきサロンをオープンにして自由に見学するというものを考えている。重点地区地域福祉委員会のコマも、基本は、重点地区の町会が主となるので、どちらもNWづくり委員会が、必ず参加しないといけないということではない。内容は、内容として、今日は日程について、決めてもらいたいと思う。

西川：1週間という日程についてどうかを決めないといけないので、NWづくり委員会の意見を配慮しながら、採決するか。

井上：皆さんの意見をふまえた上で、NWづくり委員会としても1週間という期間を了解したいと思う。

西川：それでは、地域福祉フォーラム（案）の通りに、1週間の日程で進めることにする。

井上：イメージとして、1コマにどれくらいの参加人数を想定しているのか。

西川：どれだけ集めるかという意識ではなくて、どれだけ集まるかということが気になるところである。動員をかけるというより、開催してみて、どれだけ関心を持ってもらえるかを知りたい。

近藤：会場の予約や準備上、ある程度、参加人数を想定しないといけない。

事務局：各 AP 委員会が、1コマを企画し、コマごとの実行委員として進めていく形でも OK なので、それぞれの思いでこれくらいの参加人数で開催したいと想定してもらいたい。会場規模や内容についてはお任せしたい。

西川：次回の推進協議会までに、各 AP 委員会で参加人数など、その規模や話し合いたい内容を協議して、まとめた意見を持ち寄ることをお願いしたい。

事務局：各 AP 委員会が想定する規模によって、会場も予約をするので、1週間のうちのどの日時が空いているかなど、1週間の日程もそれで確定できる。

西川：まなびフェスタの分科会の1つに1コマ持つということであるが、まなびフェスタの実行委員会もそろそろ始まるのではないか。

事務局：まだ、連絡はない。分科会は1つお願いしてあるので、どの AP 委員会がまなびフェスタのところに入るのかが決まるまでは、事務局が、実行委員会に参加し調整していくことにしたい。

4. 第5回能美市社会福祉大会における推進の中間報告及び大会宣言について

・・・資料3・4

事務局：地域福祉活動計画の今年度前半の進捗状況報告と活動計画各 AP 委員名簿を載せた資料を、社会福祉大会パンフレットに挟み込むことにした。また、大会宣言については AP 推進協議会会長の高塚さんに依頼している。

5. 今後の予定

西川：各 AP 委員会の次回開催日の確認及び、AP 委員会の合同の開催や交流などを検討していくのも、各 AP 委員会の取り組みを確認するうえでよいと思う。

次回 AP 推進協議会及び評価委員会の開催

日時：11月17日（火）午後7時30分～

場所：辰口健康福祉センター

※ 文中の略については以下のとおり
AP：アクションプラン
ファミサポ：ファミリー・サポート・センター
NW：ネットワーク

6. 閉会の挨拶

高塚委員長